

題:非日常を楽しむ・・・『旅』へのいざない

氏名:宮田直美

8月の講師であった、JR東海の須田相談役の講演は、大変興味深く聞かせていただいた。当初は国鉄から民営化されたJR東海のトップを経験された鉄道会社の元社長、というくらいの印象だったが、そのガイドブック以上の博識をお聞きし、本当に旅行を愛しているのだなあ～と感心すらさせられたものだ。

私自身も旅は好きだ。理由はざっくり『非日常空間に身をおくことができる』からである。名古屋の地に生まれ育ち、どこの土地へも移住したことがない私にとって、たかだか出張程度でも他の土地に行くことができるのは、それだけで非日常間を味わうことができる。ましてやそれが仕事も何も関係のない『旅』であれば、それだけでいつもと違った気持ちにさせられる。まさに『リフレッシュ』することができる機会なのだ。

若いうちは海外へ、と自らの信念の元、20歳を超えてからすでに20回以上海外へ出かけている。演説倶楽部でも話をした『北半球一周・単独1ヶ月旅行』をはじめ、一人で出かけることも多い。ホテルを探す・切符を買う・電車やバスに乗って目的地にたどり着く・現地の人と話をする・目的のコンサートや美術館めぐりなどを・・・日本にいればなんてことないことを、言葉の通じない異国の地で一つ一つやるのが、仕事に忙殺される日本では決して味わえない、絶妙な達成感を味わうこともでき、さまざまなものに触れるという感動にもプラスしてさらに感激もひとしおである。まさに旅の醍醐味、ということができよう。

しかし今回の須田相談役の話を聞き、今度は日本をめぐる機会も作ってみたいと思った。京都すら満足にめぐったことがないのは、せっかく日本に生まれたのにもったいない。相談役の話を聞き、日本にももっと魅力的なところはたくさんあることを認識させられた。言葉が通じるので、絶妙な達成感はないにしても、そうした日本の魅力を感じられるような場所を訪れることができれば・・・これもまた格別な『リフレッシュ』になるのではないか。日本の奥深さに触れることで、もっと何かを感じることもできるのではないか。

人間としての感性・幅の広さ・・・仕事だけしているとなかなか磨くことができないこうした部分を、旅をする、という非日常的な行動でもっともっと鍛えることができるのではないか、と思う。海外ばかりに目を向けていた自分を省みて、これからはもっと日本のいろいろなところにも行ってみようと、改めて思わされた講座であった。